

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: Field Name, Value. Fields include: 事業所番号 (0171401797), 法人名 (医療法人社団 向仁会), 事業所名 (グループホームよろこびの家 住慶 1階), 所在地 (北海道函館市谷地頭町31-8), 自己評価作成日 (平成29年1月27日), 評価結果市町村受理日 (平成29年2月17日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigvogyoCd=0171401797-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name, Value. Fields include: 評価機関名 (タンジェント株式会社), 所在地 (北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内), 訪問調査日 (平成29年2月15日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○一人一人の生活パターンを重要視し、早く食事をしたい方には早く提供し、遅い方には遅い時間に提供するなど、個人個人の意思を尊重したサービスを行っている。
○高齢者が多い地域な為、近所からの入居が多く、住み慣れた町で過ごし、ご近所の方も訪問した際には気軽に声をかけてくれるなど地域に密着した施設である。
○いろんな種類の施設をかかえている事業所である為、重度化したり、リハビリが必要になった場合でも利用者一人一人にあった施設をすぐにご紹介ができ、グループホームに戻れる状態になった時には戻ることができる施設である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市電の谷地頭電停近くの谷地頭温泉、閑静な住宅が広がる一画に木造2階建て2ユニット(定員:18名)の母体医療法人が運営する複合福祉施設の中のグループホームです。
職員の就業環境の整備に努め、離職率は低く、継続したサービスをチームケアで実践していると共に日常業務を通じた話し合いで職員の意見や提案を受け付ける機会を設け、資格取得の奨励や外部研修会への参加など職員の段階に応じた研修の機会を確保している。
また、家族等とのコミュニケーションを大切にして、意見や要望等を言い表す機会を設けて、そこでの意見等を職員間で話し合い、運営に反映できるように取り組んでいる。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement Level (1-4), Achievement Level (1-4). Rows 56-62 describe outcomes for staff, user satisfaction, and family support.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務室に掲示し、向仁会の理念は玄関に掲示し共有した理解のもとに実践している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念をつくり、ミーティングやモニタリング等を通じて職員間で話し合い、共有してその実践につなげている。また、具体的な月間目標を掲げて、ケアサービスを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議で2つの町会と交流があり、町会の行事で施設の見学を行ってくれたり、包括の依頼で施設の説明ができる機会があったり地域とつながりをつけている。	町内会の資源回収事業や文化祭に参加して、協力関係構築に努め、地元の人々との交流に取り組んでいる。また、夏祭りを開催して、地域の人達や子供たち等の参加で地元の人々との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会などでも認知症をテーマにとりあげている。認知症サポーターなどの話もよく出ていて今後グループホームも運営推進会議以外でもその話し合いのの場所として提供していきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	オムツの当て方などをテーマに行った事があるが、それに付随して水分量のチェック、排尿、排便のチェックなどの表を基に話あったりしている。	定期的に運営推進会議を開催して、日常生活の様子や事業所の取り組み状況等の具体的な内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の介護保険課や介護福祉課、指導監査課などわからない事があれば事前に相談している。保健所では口腔衛生などの講習をしている。など適切な助言をいただいている。	市担当者及び包括支援センターとは、日常業務を通じて情報交換を行い、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居当時に身体拘束はしないとご家族に説明をしています。それに伴うリスクについてもしてます。スタッフは何が身体拘束に当たるのか言葉、身体を抑えるもの、衣類、バンド、鍵、薬などの勉強会をおこなっている。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を身体拘束廃止委員会が中心となった内部研修会開催で正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	向仁会全体としても取り組んでいて、言葉、行動に問題がある場合はすぐ実態把握の為調査に入るシステムをとっています。スタッフには身体拘束と合わせて、入居者様一人一人の尊厳を大事に接することをはなしてあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修会などに参加している。実際に青年貢献人を利用されている入居者様もいらつやって、お身内さんが高齢でしかも京都に在住されているという事で青年後見人を利用されていた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明は入居当時にきちんと説明している。解約はほとんどが入院、その後死亡などで戻れない状態の時である。契約変更時はお手紙等で説明を行い、新たに契約をとりなおしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理簿を設け、常に対応できるように準備をしているが、ご家族様からはスタッフに「足りないものはないですか？」などの温かい気使いの言葉で運営に関してのご意見はない。	家族や来訪者等が意見や苦情等を言い表せるように玄関に意見箱を設置している。また、苦情等の第三者機関への連絡先を玄関入り口の見易い場所に掲示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とは面談を行って意見を聞いたり、スタッフ会議、朝礼などでも運営に関する説明をおこなっている。	個人面談の実施やミーティング、日常業務を通じて職員の意見や提案を聞く機会を設け、そこでの意見やアイデアを運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約更新事に自己評価、上司の評価の中で職員個々の実績、勤務態度を盛り込み、職員本人の希望も取り上げ職場環境や条件をととのえている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会は自由に参加できる。希望や又法人側にふさわしいと認められた職員は実務研修や管理者研修をうけることができる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	グループホーム協議会に加盟しており、定期的な勉強会、講演会、親睦会、会議等で交流をおこなっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談を行い御本人にこちらの顔を知っていただき、不安や悩み、希望を聞き、心配ないことを伝え、信頼関係を築いていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に面談を行い御家族から情報や希望、不安なこと、困っていることなどをお聞きして、既往症、お薬、今までの生活パターンを知り心配ないことを伝え信頼関係をきずいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談で知りえた情報を基に2週間の初期プランを作成して、実際に2週間生活をしていただいた結果必要とされるプランを盛り込みご家族、ご本人様に説明納得して頂いた上でサービスを行います。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は情報を把握しプランを理解したうえで御本人ができる最大のことを共に暮らす家族の一員として見守りながら横並びの関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族は入居者様にとって最大の支援者であり、職員の最大の理解者であると考えられるのでともに情報を共有して本人に最もよい支援を家族と職員で関係をきずいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知り合いなどなじみの方が気軽に面会に来れるような環境作りを心がけている。なじみの方はご本人が好きだった花や食べ物や飲み物を持参して楽しいひと時をすごされています。	友人・知人等の来訪支援や散歩や買い物などで馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はほとんどの方がホールで過ごされ、声を掛け合ったり、ひざ掛けをかけなおしてあげたりされている。全員認知症ということで理解できず毎日同じセリフで非難めいた言葉を吐く言葉も聞かれますが双方傷つかない様になっている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も病院に面会に行ったり、次の施設の紹介のサポートに行ったりしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向を把握し出来るだけ希望に沿うように努めているが、年齢や時の流れ、環境の変化で御本人様の気持ちも変化しているのでその時に一番望んでいることを把握して検討している。	生活歴や趣味嗜好、一人ひとりの希望や意向の把握に努め、職員間で情報の共有に努め、本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に知りえた情報や御本人から聞いたお話、ご家族から聞いたおはなしを踏まえて御本人にあった支援につとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床時間、食事の時間など、それぞれの時間に合わせている。早く食べたい方にはまたせず先にお出ししている。いつまでも寝ていて遅く起きた方には遅くお出ししている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスや担当者会議などスタッフ、医療連携看護師、担当医などの意見を総合して今御本人に必要な介護計画を作成している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の意見や要望、医師・看護師からの指導や助言、カンファレンスやモニタリングを通じて職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、バイタルチェック表、水分、排泄チェック表で日々の記録をつけ、夜勤者から日勤者へ、日勤者から夜勤者へと情報を伝えている。その都度にあった支援をこころがけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院後、リハビリが必要になったとき時、リハビリが必要になったとき、経管栄養、が必要になったとき時は同法人の強化型老健や有料老人ホームなどへの移動などその人にあったサービスを受けることができる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、消防署、民生委員、包括支援センター、市役所、保健所の連携を行い、安全で豊かな暮らしを支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所当時にご家族と話し合っけてきめている。今までのかかっていた病院をそのまま利用する方やお任せします。という方や中々来れないのでファミリークリニックで居宅療養管理指導をうけたいなど要望に対応している。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、往診や日常の健康管理、通院への支援等で適切な医療を受けられるようにしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人クリニックと医療連携体制を行っており、週に1回の定期的管理と24時間オンコール体制にて適切な支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には主治医からの紹介状、施設からの介護要約にて情報交換を行い、入院先の担当医、医療相談員、担当看護師と常に連絡を取り合い、病院側との関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	契約時には重度化や終末期に関する方針を説明している。いざ其事態が発生したときは改めて週末にあたっての説明、ケアプラン主治医とかわす同意書等を行って頂き職員、家族、看護師、医師と一丸となって終末期に向け支援にあたります。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら指針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時の対応、連絡方法は常日頃から終始徹底している、緊急マニュアルや応急手当マニュアルはスタッフルームに常備してある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防隊員の立ち合いのもと、年に2回火災訓練、消火訓練を行っている。町会で行っている地震、津波の避難訓練には職員はたちあがっている。	消防署の協力を得て、年2回の昼夜間を想定した実技を伴う避難訓練や消火訓練を実施している。また、町会の自然災害(津波、地震等)の避難訓練に参加して、協力体制を整えている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれに居室は個室となっており、プライバシーは守られている。優しい声がけは基本ですが、入居者様一人一人に合わせた声がけ、その方が理解出来るよう対応しております。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけが無いように内部研修会開催や日常業務を通じて対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	必ず御本人に声がけしてお返事をもらってから入浴、外出、お食事、着替えなどをおこなっている。もし御本人が拒否された時は無理には行っていない。時間や日にちをおいてはらきかけます。あくまでも御本人様の決定を重視している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	理念にも掲載してあるようにゆとりをもって一人一人の生活ペースに合わせて希望に沿った支援をおこなっている。		
		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なるべく着替えの選択をしていただき鏡の前で髪を整え、好きな髪形にしていだいてもらうなど御本人らしさをモットーに支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	色どりや盛り付けに工夫して食欲がそそる様に工夫しています。ホールの一部に台所があり匂い、もりつけが見えるところで行われているので常に一緒にできる体制にあります。	管理栄養士による献立表で、栄養バランスや摂取カロリーを把握している。また、一人ひとりの力を活かしながら食事の後片付けや食器拭き等職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	今は日綜の栄養士の献立で行われているので栄養は問題ないとおもわれます。ただし食べない入居者様にはエンシュアやエネーボ・高カロリーの栄養食を飲んでいただいています。水分はチェック表で管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	勉強会なども開き、磨き方、「パタカラ」などの嚥下体操なども行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターン、尿量を調べ、それぞれの時間でトイレにお誘いして失敗を軽減する様に勤めています。	一人ひとりの力や排泄パターンを把握し、声かけや誘導等の工夫でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の把握、消化、に良いもの、乳製品の提供を行っている。便秘がちの方には医師に相談しお薬を処方してもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	希望優先ですがほとんど希望はなく、間隔をみながら職員から声掛けをおこなっている。入らないと言われる方はいらっしゃるので、間隔が長くならないように声かけの工夫をしている。	拒否の強い本人にも柔軟な入浴支援をしている。また、一人ひとりの希望やタイミングに応じて週2～3回を目安に入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分でできる方は自分のペースでできない方はこちらで様子を見ながら声かけを行い、ナイトケアのお手伝いを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ミスが無いように飲ませる直前まで名前の確認を行い、口から落とさないように飲み込むのを確認をしている。毎日飲んでる薬ではあるが服用後の観察もおこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食べる事を楽しみにしている人。洗濯ものを気にかけている人、お手伝いを気にかけている人。人それぞれさまざまですが、その方その方で満足できるように対応している。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望により、ご家族と出来るよう支援している。	日常の散歩や買い物、家族と一緒に外出などで戸外に出かけられるよう支援をしている。また、ADL低下に伴い外出が難しくなっているが花見や紅葉散策など出かけられるように検討している。	今後は、さらに家族の協力や人員配置の工夫、施設内での歩行運動やアクティビティを増やすなど検討しているので、その実践に期待します。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方は現在おりません。必要に応じて御家族が出したりしますが手元にはおいていません。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	スマホで毎日連絡を取り合っている方はいらっしゃいますが、ほかにかけている方はおりません。帰宅願望などがあって電話をかけたいなどの要望がある時はかけてから御本人に代わっていただいています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって室温を考えたり、日差しを考えソファの位置を変えたり、食卓のテーブルの位置を変えたりしている。おひとりが良い人、など個々が落ち着けて安心できる空間を提供している。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、共用空間では、室内の温度管理や感染症予防対策の設備の導入、季節毎の飾り付けなどで生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほぼ座る位置は決まっています。気の合ったもの同士で座っている。個々にいろいろお勧めして希望の場所に座って頂いています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になじみのものというお話はしています。ご本人が安全、安心に過ごせるようにご家族と相談のうえ配置しています。	居室には、使い慣れた家具や寝具等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。また、居室からは函館山や市内を望める景観が素晴らしい。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	杖歩行の方でも居室のすぐ横にトイレがあり、手すりを伝わって行けばとどき着く様になっている。段差もなく足があまり高くあげられなくてもつまずかない構造になっている。			

目標達成計画

事業所名 グループホーム よろこびの家 住慶 1階作成日: 平成 29年 2月 16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	12	最低賃金は上回ってはいるが、何も資格がなかったら夜勤とかつらい思いをしても思うように収入がないとの声がある。	資格等を取れるよう支援していく。	その人に合った、資格を取れるよう支援していく。	1年
2	3	以前広報誌を出していたが、現在出していない。	町内会の回覧などに入れてもらう。	家族にのみに配布していた、広報誌を町内会の回覧版にも入れてもらうようにする。	1年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171401797		
法人名	医療法人社団 向仁会		
事業所名	グループホームよろこびの家 住慶 2階		
所在地	北海道函館市谷地頭町31-8		
自己評価作成日	平成29年1月24日	評価結果市町村受理日	平成29年2月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0171401797-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成29年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○一人ひとりの意思を尊重し、「その人らしさ」を最後まで失わないよう、適切且つ安全を第一にサービスの提供を心掛けます。
 ○入居者様が地域社会の一員として生活出来るように支え、医療・介護の提供・尊厳やプライバシーへの配慮を重視した総合的な生活支援を目指します。
 ○24時間365日職員が常駐して、医療機関と連携を図り、入居者様の日々の健康管理や緊急時のサポートを行います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆとりを持ちます・毎日楽しく過ごします・良い環境を作ります」の3つの理念を掲げ、入居者様、御家族、地域住民、職員に対し共有出来る覚えやすい親しみのある理念を実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や夏祭りをはじめ、地域住民の方の参加もあり交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を主とし地域住民への働きかけを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね2ヶ月に1度(年6回)開催し、会議には町会、民生委員、市役所職員など外部の方々にも参加して頂き毎回様々なテーマをもとにサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を主とし入居等の案内を通し連携を図っている。又、市が主催する研修や講演への参加を通じ協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ポスターの掲示や勉強会等で日頃から職員一同身体拘束ゼロを目指している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、代表者へ月間業務報告書の提出があり、その中での記載事項に虐待についての項目がある。職員の署名、捺印をし虐待の防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は活用するまでに至ってはいないが、今後に備え必要性を考慮した上で勉強会等で取り上げ職員への反映を行っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、法人内にて「入居判定会議」を開催しておりそこで入居の可否を決めている。その上で契約の説明、同意を得た上で締結を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「苦情相談窓口」を設置し当ホームに関する意見や苦情を集めそれらを徹底的にスタッフ会議等で話し合い、反映させ必要であれば経営者へ報告し指示を仰いでいる。現時点では苦情は上がっていない。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議を定期的(月1回)に開催し、職員より意見を汲み取っている。そこでの希望や意見等を経営者に伝え運営に反映、実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は日頃から職員の勤怠状況、勤務状況等に目を配り、実績を給与に反映している。又、昇給や昇格への判断材料とし昇給・昇格試験の実施も行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修や講演への参加に少しずつだが参加している。又、研修の意義を理解し自らの目標もたて実践の経過として書面等で報告し、個々のスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	代表者より定期的に行われる研修に参加する事で情報の共有、サービスの質向上に反映している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の申し込みを頂いた時点で、本人様、その御家族様に対し入居する上で少しでも不安に思う事や悩みを解消して頂けるよう面談時などの話し合いに力を注いでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたり面談を行う際は、入居に至る経緯やその背景に十分気を配り、出来る限りご家族の要望に添えるよう環境作りや信頼関係作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時には初期プランを作成、実践する事で本人様が何を求めているか何を必要としているかを十分に理解した上でスタッフ間で共有しながらケアに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員一人ひとりが理念を常に頭に入れ利用者の暮らしを決して損ねないようご本人の意思も尊重しつつグループホームらしさを介護を通じ関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様も入居者様同様の目線に立ち支援する事に努め、職員、御家族様、本人様の関係を共有出来るよう介護計画を中心に築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の際に最も重要視している事であり、環境変化に対する不安、疎遠を少しでも軽減出来るよう馴染みの人物の関係に対し少しでも途切れないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員との関わりはもちろん、入居者様同士の関わりに重視している。ある入居者様は馴染みの方が出来た事で生活に活気が出ている。職員は話題を提供する事で入居者同士孤立がないよう日々支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了が決まる前後に本人様に必要な支援(他サービスの利用)等を考え本人、御家族様に適当なフォローを提供している。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様、御本人様や御家族様の思いを受け止めケアプランに反映させ、又日々変動する思いや希望をアセスメント、ケアカンファレンス等により検討する事で常に本人本位のケアを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に御本人や御家族様から聞き取りを行い作成したフェイスシートを常に参考にしながら御本人にとって馴染みの環境が継続できる様に職員全体で努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの日々の暮らしや体調、精神状態の変化等現状の把握をする事によりその人がその人らしくベストの状態与生活出来る様に職員全体が努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人様、御家族様、主治医、看護師、職員等参加の元サービス担当者会議を実施話し合いの元ケアマネージャーが介護計画を作成し定期的にモニタリングを実施する事でより現状に即した介護計画の見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った事柄や日々の様子、ケアの内容等わかりやすく介護記録に記載する事で職員間で情報を共有しながら日々のケアに活かしていきながらケアプランの見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	市内に同一法人の施設が複数あり入居者様の状況や新しいニーズに多方面に渡り対応出来る。柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人様の状況に応じて福祉事務所、包括支援センター等の行政機関と連携を取り必要な支援をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人、御家族の希望のかかりつけ医と常に連携を取り定期的な往診の介助や受診が必要と判断した場合には御家族への報告をすると共に依頼のあった場合には受診介助を行っており日々適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師による週1回の健康管理と24時間オンコールにて医療に関する指示や助言をもらえるようにし、適切な受診や看護を受けられるようになっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には介護添書を提出し、情報交換や入院中、退院後の対応についても連携を行っている。また、緊急時の対応に備えて日頃より医療機関との関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りに関する説明を行い、実際に看取りのサービス提供を行う際には十分に関係者全員にて支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、緊急時の手当てや対応について勉強会等を行い、備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防立会いの基、総合防災訓練を実施し、昼夜を問わず利用者が避難できる訓練を行い、必要時には地域の協力を受けれるように体制を築いている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の個人としての人格を尊重し、プライバシーや気持ちを考慮し対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が様々な物事に対して、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	出来るだけその方の生活のペースを大切に、希望に添える支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員がお手伝いを行い、本人が希望する身だしなみやおしゃれができる様に支援している。おしゃれが好きの方が多く利用者様も一緒に外出し衣類を購入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立は業者に頼んでいるが食べやすいような味付けや柔らかさなど工夫を行っている。又、月に1回行事として普段とは違ったメニュー、雰囲気ですべてを提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事の状態に合わせて、お粥・刻み・減塩等の対応を都度行い提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ず実施している。利用者それぞれの口腔状態に合わせて対応を変え行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを日々管理し、失敗やパット等の使用を減らし、トイレでの排泄が出来るだけ行える様自立にむけた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	消化の良い物や腹部マッサージ、便秘が改善されるような飲食物の摂取、利用者によっては下剤を服用して頂く等し、便秘の予防や改善に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	本人の希望に沿った入浴を行うよう支援しているが、本人の体調によっては中止する場合もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	共有スペースでの仮眠や、居室での休息等、その時々状況に応じて個々が安心して休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の確認、管理を実施し、服薬の際はチェックシートや在庫管理表にて誤薬防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に役割を持ってもらい、家事支援等を中心に日々張り合いのある生活を送って頂けるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の際には本人の希望に添えるよう支援を行い、必要時にはご家族様や地域とも協力しながら出掛けられるように支援している。個別対応での買い物を中心として行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理して頂ける方には、小額ではあるが所持、管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ごく少数だが公衆電話や手紙のやり取りをしご家族様とのやり取りを行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの環境整理を日々行い、動線をしっかり確保した上で入居者が居心地良く過ごせるように工夫している。定期的に家具や席の配置を変え状況に合わせた空間づくりに取り組んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が共有スペースの中で自分の場所を作り、独りで過ごしたり、他者と過ごしたりと思いに過ごせるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は個々の馴染みの物を自宅より持参され、居心地良く過ごせるような工夫をしている。利用者自ら居室内の様態替えを好きなように行っている方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーの構造になっており、必要な場所には名前を掲示し安全で自立できるような環境づくりを行っている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム よろこびの家 住慶 2階

作成日: 平成 29年 2月 16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	13	法人内の研修だけではなく介護の理念など基本的な事は定期的に施設内での勉強会を密に行っていく必要がある。	同じ理念を掲げ職員一同でチームケアを行っていけるように協力体制を築く。	定期的な施設内での勉強会を行う。	6か月
2	49	入居様様のADL低下に伴い外出が難しくなっている。また外出が無い事により更にADLが低下するという負の連鎖が起きている。	定期的に外出が出来るように出来る体制を作る。	施設内での歩行運動やアクティビティを増やしていく。その後少しずつ散歩や買い物などの外出支援をさせて頂く。	12か月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。